

第3学年「国語」学習指導案

授業者 佐久山 有美

2月16日（金） 多目的室 9：00～9：40 （話し合い11：00～11：45）

1 単元名 思いを聴き合おう

単元 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述をもとに想像しながら読む。 ・考えたことを伝え合い、一人ひとりの感じ方について違いがあることに気づく。
----------	--

2 単元について

本学級の子どもたちは、年間を通して対話をし、お互いの思いを聴き合うことを重ねてきた。サークル対話やてつがく対話を継続して行うことに加えて、国語の学びの中でも、対話を通して場面の様子や人物の気持ちから想像したことを伝え合ったり、問いをもったことについて考えを聴き合ったりすることを行ってきた。10月に学習した『ちいちゃんのかげおくり』（光村図書 三下）では、「この場面の、ちいちゃんの気持ちは？」「ちいちゃんは死んでしまったの？」という問いに加えて、「どうして戦争が起こってしまうの？」「人はどうして戦争やけんかをするの？」という問いをもった児童がいた。ことばの学びから“てつがくする”ことへの広がりを楽しみながら学習を進めてきた。

このような学びの履歴をもつ子どもたちと、本単元では『モチモチの木』（光村図書 三下）を読む。本単元でも、ことばに引っかかり、他者の問いをもとに、自己の経験と重ねながら思いを見つめ、聴き合う学習を重ねたい。本作品には、5歳の「豆太」の行動やことばに加えて、「勇気のある子ども」や「やさしささえあれば…」といった「じさま」の表現など、さらに考えを広げたいと感じるであろうことばが散りばめられている。作品の特徴でもある独特な表現や場面の様子を確かめつつ、「勇気」や「やさしさ」について子どもたちとともに立ち止まり自己を見つめる機会になればと本単元を構想した。

第1次では、子どもたちが印象に残った場面や、問いをもった場面をもとに、作品を読み深めていく。特に、場面ごとの豆太の心情の変化や情景に注目したい。また、並行読書として斎藤隆介さんの本を読むことも行う。独特な表現に気づくことや他の作品と比較して読むことも期待したい。

第2次では、作品を読み、斎藤隆介さんの世界観を味わった子どもたちとともに、自己に引き寄せて考え、作品から思いを広げ、伝え合う。当たり前のことばに立ち止まり、自らの経験と重ねて思いを伝え合うことで、作品の理解をより深いものにするだけでなく、自他の違いに気づき、自らを見つめるきっかけとなることを願っている。

3 学習指導計画（12時間目／全14時間）

第1次 『モチモチの木』を読み、印象に残った場面や問いをもとに、作品を読み深める…10時間
（豆太やじさまの行動や表現からわかる心情、情景、斎藤隆介さんの他の作品など）

第2次 さらに考えたいことについて、お互いの思いを聴き合う……………本時2／4時間

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

問いに対する自分の思いをもち、お互いの思いを聴き合いながら、自らを見つめる。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 問いに対する自分の思いをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で、自分の思いを絵や文で表現する。 ・サークルになって座り、お互いの顔を見合いながら安心して話せるようにする。必要に応じて、教師が問うことや、価値づけることもあるが、子どものことばでつないでいく。 ・ふり返りを書き、次時につなげる。
2 対話を通して、お互いの思いを聴き合う。	
3 自らの思いを見つめ、ふり返る。	

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

ことばに引っかかり、自らの経験と重ねながら考え、聴き合う子どもたちの姿について。